

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 215-8550
 住所 神奈川県川崎市麻生区栗木2丁目5番1号
 氏名 キヤノンアネルバ株式会社
 代表取締役社長 酒井 純朗

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名称 又は名称	キヤノンアネルバ株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市麻生区栗木2丁目5番1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	26	生産用機械器具製造業
主たる事業 の内容	真空装置・真空機器製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,693	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成28年度～平成30年度（報告年度 平成30年度分）
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策については、HPにて公表しています。 <環境への取り組み> http://www.canon-anelva.co.jp/company/ecology.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況 (排出係数固定)

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 5,650 t-CO ₂ (調) 5,637 t-CO ₂	(実) 5,478 t-CO ₂ (調) 5,466 t-CO ₂	(実) 5,751 t-CO ₂ (調) 5,738 t-CO ₂	(実) 5,596 t-CO ₂ (調) 5,583 t-CO ₂	(実) 5,589 t-CO ₂
削減率		(実) 3.0 % (調) 3.0 %	(実) -1.8 % (調) -1.8 %	(実) 1.0 % (調) 1.0 %	(実) 1.1 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	装置保有金額		単位	t-CO ₂ /¥	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	3.650	3.428	3.517	3.495	3.542
削減率		6.1 %	3.6 %	4.2 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	省エネ施策の継続と実験装置の稼働管理により、温室効果ガスの総排出量は基準年度（前年）と比較して、約172トン（基準年度比3.0%）削減が出来た。 原単位においても、基準年度（前年）と比較して6.1%の削減を達成できた。
第2年度	業態構成の変更及びその業務の増加により、長期休暇時に行っていた装置関係の一斉停止日数減少やクリーンルーム内の温度条件の変更によりエネルギーの使用量が増加して温暖化効果ガスが増加（1.8%）いたしました。 但し、原単位に関しては、基準年度と比較して3.6%の削減を達成しております。
第3年度	昨年に引き続き、業態構成の変更及びその業務の増加によりクリーンルーム内の温度条件の変更がありましたが、温室効果ガス排出量は、昨年度より155ton(2.7%)改善することが出来ました。そして基準年に比較して54tonの削減をしています。最終的に、CO ₂ 排出量は、目標より7t(0.1%)届きませんが、設定目標としている原単位に関しては、基準年度比4.2%削減することが出来、計画の3.0%より1.2ポイント削減することが達成できています。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	1. 熱利用設備の放熱面積の低減措置 2. 高効率機器の採用 3. ポンプ、ファンの回転数制御装置等の採用 4. 運転分析実施するための工場エネルギー管理システム等の採用 5. 照明設備の運用管理
	第1年度	1. 熱利用設備の放熱面積の低減措置 ・水-水熱交換器への断熱材の装着 2. 高効率機器の採用 (LEDランプへの交換) ・蛍光灯ダウンライトをLEDダウンライトへ交換 (A棟1Fロビー 32灯)
	第2年度	2. 高効率機器の採用 (LEDランプへの交換) ・水銀灯スポットライトをLEDスポットライトへ交換 (B棟B1Fトラックヤード 6灯)
	第3年度	3. ポンプ、ファンの回転数制御装置等の採用 ・一般排気ファンGEF-1-1及びGEF1-2のインバーター化 4. 運転分析実施するための工場エネルギー管理システム等の採用
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	1. グリーン購入（事務用品）の推進、2. クールビズ・ウォームビズの実施、3. 社有車のエコ運転の徹底と燃費改善推進施策の実施、4. 高燃費車への入替、日常車両点検の実施、5. 公共交通機関の利用推進、6. 定期便の利用推進、運用改善、7. 最寄り駅から本社までは徒歩通勤を実施、8. 物流コースの効率化、折りたたみコンテナ輸送の徹底、9. 廃棄物排出量削減・プリンター用紙使用量削減、10. 製品の環境配慮型設計の推進、11. 環境自覚教育の実施
第1年度	1. 事務用品はグリーン購入を推進、2. クールビズの実施（5/16～10/28）、3. 社有車のエコ運転（運行記録と社有車内の表示による意識向上）を推進、4. ハイブリッド（S-HYBRID含む）車の追加導入（2台）と日常車両点検の実施（乗車前点検の実施と記録）、5. 公共交通機関の利用推進、6. 事業所間の定期便（バス）の台数の1台運行、7. 巡回バスは使用せず、最寄り駅からの徒歩通勤を実施、8. 物流コースの効率化を徹底し、CO2の排出量削減を実施、9. 裏紙使用の徹底、取説等のCD-ROM化による廃棄物削減、10. 製品の環境配慮型設計の推進（環境影響評価の実施）、11. 3-OFF運動（スリーオフ）によるパソコン・ディスプレイの待機電力の削減を実施、12. ライトダウンキャンペーン2016への参加、13. ノー残業デーの拡充（月曜日、金曜日）、14. アースアワー（2017年）参加、15. エコドライブ講習会開催
第2年度	1. 事務用品はグリーン購入を推進別添のとおり、2. クールビズの実施（5/15～9/29）、3. 社有車のエコ運転（運行記録と社有車内の表示による意識向上）を推進、4. ハイブリッド（S-HYBRID含む）車の追加導入（2台）と日常車両点検の実施（乗車前点検の実施と記録）、5. 公共交通機関の利用推進、6. 事業所間の定期便（バス）の台数の1台運行、7. 巡回バスは使用せず、最寄り駅からの徒歩通勤を実施、8. 物流コースの効率化を推進し、CO2の排出量削減を実施、9. 裏紙使用の推進、取説等のCD-ROM化による廃棄物削減、10. 製品の環境配慮型設計の推進（環境影響評価の実施）、11. 3-OFF運動（スリーオフ）によるディスプレイの離席時の電力の削減を実施、12. ライトダウンキャンペーン2017への参加、13. アースアワー（2018年）参加
第3年度	1. 事務用品はグリーン購入を推進別添のとおり、2. クールビズの実施（5/14～9/28）、3. 社有車のエコ運転（運行記録と社有車内の表示による意識向上）を推進、4. 日常車両点検の実施（乗車前点検の実施と記録）、5. 公共交通機関の利用推進、6. 事業所間の定期便（バス）の台数の1台運行、7. 巡回バスは使用せず、最寄り駅からの徒歩通勤を実施、8. 物流コースの効率化を推進し、CO2の排出量削減を実施、9. 裏紙使用の推進、取説等のCD-ROM化による廃棄物削減、10. 製品の環境配慮型設計の推進（環境影響評価の実施）、11. 3-OFF運動（スリーオフ）によるディスプレイの離席時の電力の削減を実施、12. ライトダウンキャンペーン2018への参加、13. アースアワー（2019年）参加

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	5,413	t-CO ₂
(調)	5,378	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
キヤノンアネルバ株式会社	神奈川県川崎市麻生区高木2丁目6番1号	2693	真空装置・真空機器製造業	5,413 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--